

文化庁委託事業
「平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

平成 27 年度
江戸系あやつり人形 結城座
人形遣い体験入門研修事業 報告書



開講にあたって

結城座はお蔭様で、一昨年創立380周年を迎えました。

約四世紀という長い時の流れの中で、この“江戸糸あやつり人形”という日本人独特の感性が生み出した繊細かつ、しなやかな強さを持った芸能は、多くの民衆に愛され続けてきました。沢山の人形遣いたちが芸を磨き、しのぎを削り合いながら試行錯誤を重ね、人形の仕組みや技術も熟成されながら、現在の私達の時代へと伝えられてきたのです。

今私達が思う事は、この小さな一座がなんと多くの人達に支えられ存在しているかという驚きと喜び、そして四世紀にわたり人々を強く魅きつけ、その心を豊かにして、人と人との結び付けてきた“江戸糸あやつり人形”の持つ素晴らしい力です。

結城座は、この“江戸糸あやつり”の絆を更に未来へとつなげてゆく為、平成23年度より文化庁の委託を受けて、小金井の稽古場での人形遣い入門塾をスタートさせました。優れた後継者を見出し、同時に多くの人々にその魅力を実体験して頂きたいと考え取り組んだ入門塾も、今回で第五回目となりました。

今年度も又、私達の活動にご賛同下さる各界の実力者の方々が特別講師を勤めて下さり、皆様ご多忙な中、塾生に手とり足とりの熱心な講座を行って下さいました。通常ではとても体験できない素晴らしい授業に、塾生達の人形への意欲もより一層深まりました。

こうして各界の皆様のお力添えにより、今年度も大変充実した入門塾になりました事、座員一同心より御礼申し上げます。今後も未来に向けてこの“江戸糸あやつり人形”という日本の貴重な芸能を伝える為、より一層努力をして参りたいと思います。

結城座



目次

開講にあたって	1
全体の講義概要	3
人形実技（結城座 人形遣い一同）	4～6
能の発声法と所作（津村禮次郎 先生）	7
日本舞踊（西川右近 先生 西川鯉之祐 先生 西川貴美子 先生）	8
受講生のアンケートより	9
最後に	10

全体の講義概要

●実施期間 平成27年6月～平成28年1月

●授業日 月・水・土曜日

(人形実技120分＝1コマ その他の特別講義90～120分＝1コマ)

●参加者数 15名 (女性12名 男性3名／20代 3名 40代 3名
50代4名 60代 4名 70代 1名)

●講座一覧

科目	講師	授業数
人形実技 (実習を含む)	結城座人形遣い一同	80コマ
能の発声法と所作	津村禮次郎	8コマ
日本舞踊	西川右近 西川鯉之祐 西川貴美子	6コマ

●成果発表会

平成28年1月 「伽羅先代萩」(於 結城座稽古場) 出演 裏方



人形実技 （８０コマ）

講師：結城座人形遣い一同

●開講式

結城座及び人形についてのお話、自己紹介の後、人形を手にする。授業の始まりと終わりに行うお辞儀の仕方も学んだ。

●人形遣いの姿勢

人形の操作盤である「手板」を左手で軽く持ち、手板と遣い手の身体の上に空間を作る。遣い手の足は肩幅程度に広げ、骨盤を立て、膝を軽く緩め、腰を少し落とし、つま先の方へ重心を乗せる。手板は常に水平に持ち、人形の足裏で地面を感じる。



●足踏み

右の膝の糸を上下させることによって足踏みをさせる。左右の膝を同じ高さに上げること、手板を水平に保ち、上下させないこと等に気をつける。

●足踏み前進

足踏みをしながら前に進む。前に進む人形の後をついていくように遣い手も進む。人形と遣い手の距離やスピードのバランスをとる。



人形を持たず、腰の位置を変えないように進む稽古



腰をひねって左右に足踏みさせる稽古

●人形についている糸、胴の構造

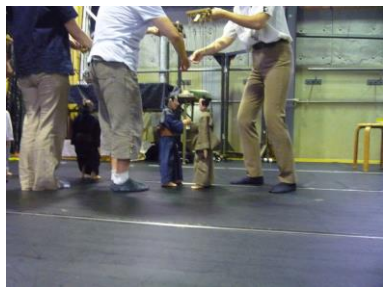
膝の糸の他、人形についている糸の場所や遣い方を学ぶ。また、男と女の胴の構造についても学ぶ。授業は、基本的に男の人形で行う。



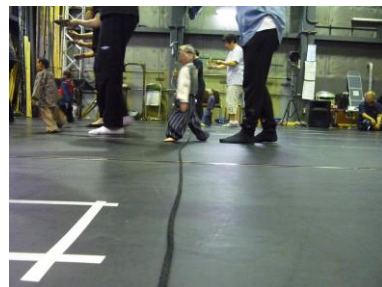
●体重移動、台の昇り降り、握手、その他様々な遣い方



台の昇り降り



人形同士の握手



ロープを踏まないで進む

●発表会に向けて

発表会の演目が決まり、発表会で実際に芝居をするため、手のひらを返す糸、小道具の刀を遣うこと、片膝をつくこと、つま先の糸と膝の糸を同時に遣うこと、糸をすばやく持ち替えることなどを稽古した。



手のひらを返す糸で刀を遣う



つま先と膝の糸を同時に遣う

●発表会稽古

発表会の演目『伽羅先代萩 花水橋の場』の稽古。台本の読み合わせ、台詞の稽古、登場する人形の準備、立ち稽古を行う。



人形の胴を調整して衣裳を着せる



読み合わせ・台詞の稽古



立ち稽古

●発表会

1月10日発表会を行った。『伽羅先代萩 花水橋の場』では、入門塾開始当初から稽古し続けてきた基本を元にして、立ち回りや小道具遣いなど技術的にとても高いものを求められた。発表会は2回公演とし、キャストイングをそれぞれ替えて上演した。また本編をより理解しやすく楽しめるように、演目の前に結城千恵による人形解説を行った。2回公演共に大勢のお客様にご来場いただき、塾生は稽古の成果を披露した。



塾生制作による特大ポスター



塾生制作によるパンフレット



結城千恵による人形解説



口上人形



そば屋と中間



そば屋の屋台去り



松ヶ枝の登場



立ち回り胴切り



幕切れ



カーテンコール



修了式



最後に集合して

特別講義 能の発声法と所作 (8コマ) 講師：津村禮次郎 先生

● 講義を終えて

今回で二度目の能楽研修講座でした。回数も増え二度目の体験者がいたりで、初年度に比べて余裕があったかなと思われました。

能には舞、謡、囃子など多方面の技術修得が必要です。今回は実技を深めると共に、現代の舞台芸術としての実態を、古典と創作の両面から考えて見ることにしました。参考の映像も多く使い、能以外の舞台芸術にも触れて貰いました。何より実際のステージに足を運び見ることで、舞台と観客、空気感も体験して頂きました。受講生は積極的に取り込み外に出かけ、その情報をクラスで共有することが出来ました。作品、演技者、観客を一体に感じたのではないかと思います。

引き続きクラスを続けて行くならば、創作ということも可能になるでしょう。息の長い活動と支援が望まれます。(津村禮次郎)

● 講義概要

- 第一回 日本の伝統芸能の歴史から、能の成り立ち、位置づけについてお話を伺う。能面についてのビデオを鑑賞し、実際にお持ちいただいた能面を見せていただいた。
- 第二回 座から流派や家について、能を構成するもの、能舞台についてなど、能についてより詳しくお話いただく。また、「高砂」の謡も少し教えていただき、舞における立ち上がり方や向きの変え方も指導いただいた。
- 第三回 「高砂」を教材に、謡と舞を学ぶ。ヤアの間、ヤヲの間、ヤヲハの間など、能の拍子について、上音中音など音程について、また謡曲の構成についても教えていただいた。仕舞では「差し込み開き、左右」などを教えていただいた。
- 第四回 囃子についてのビデオを鑑賞し、どんな楽器や素材が使われているのかを教えていただいた。扇を笛に見立てて笛の手つきを学んだ。また、能「石橋」を先生に解説していただきながら鑑賞した。
- 第五回 引き続き「高砂」を学ぶ。世阿弥が作った複式夢幻能というシステムや、現在能といった能の種類について説明いただいた。謡曲の中に、現在使われている言葉の語源がたくさん見つけられた。先生の指導のもと「高砂」を地謡と仕舞に分かれてやることにも挑戦した。
- 第六回 佐渡で行われた薪能「杜若」及び、先生が佐渡の朱鷺をテーマに作られた創作能「トキ」のDVDを鑑賞。佐渡について、また「杜若」の物語や装束についても詳しく教えていただいた。
- 第七回 「羽衣」のキリを教材に、ヨワ吟の音程や、拍不合について教えていただく。また、「羽衣」キリの仕舞も指導いただいた。
- 第八回 「高砂」「羽衣」の謡のおさらいと、「羽衣」キリの仕舞を指導いただいた。また、先生のドキュメンタリー「朱鷺島」を鑑賞し、解説いただいた。



特別講義 日本舞踊（6コマ）

講師：西川右近 先生 西川鯉之祐 先生 西川貴美子 先生

● 講義を終えて

舞台で芝居をするために必要なこととして、日本舞踊を学んでいただきました。よい形や心を、糸を通して人形で伝えるために、踊りを役立ててほしいという気持で授業にあたりました。踊りを上手く踊ろうということではなく、摺り足やお辞儀、立つ・座るという基本的なことから、日本舞踊の美しく無駄のない所作は、舞台上で人形を遣ううえで必ず活きることを思います。女の踊りと男の踊り共に、最後までに少しでも身体に馴染んでもらえればと、短めの曲に致しました。初めは振り付け通りに踊ろうと、それだけで精一杯だったかもしれませんが、どのように身体を使えば伝えたいことを伝えられるのか、伝えたいように見えるのか、などを少しでも考えていただければ、人形のお芝居でも役立つと思います。この授業を通して経験したことを役立てていただき、益々人形のお稽古に励んでいただければと思います。（西川鯉之祐）

● 講義概要

- 第一回 着物を普段ほとんど着ない塾生に対しても、着付のコツ、また、良い着物の時の着方や子供の着方、役柄によって着付が変わることも教えていただいた。お辞儀の仕方、お扇子の開き方扱い方、摺足で歩くこと、方向転換の仕方など、所作の基本を学び、女の踊り「宵は待ち」を教えていただく。
- 第二回 「宵は待ち」の振りの意味を詳しく教えていただきながら、お辞儀、扇子のかなめ返し、首振りやおすべり等を学ぶ。男の踊り「松づくし」も途中まで教えていただいた。
- 第三回 基本の所作の復習を挟みながら、「宵は待ち」及び「松づくし」の稽古。女と男の足運びや首振り、おすべりの違いも教えていただく。
- 第四回 「宵は待ち」をはじめから丁寧に稽古。二人一組になって、花魁と禿のやりとりの振りを確認する。「松づくし」は男の構えや足の割り方を丁寧に指導いただく。
- 第五回 「宵は待ち」と「松づくし」を丁寧に稽古
- 第六回 「宵は待ち」と「松づくし」の最終稽古。美しく綺麗な姿勢は身体がきつい、という先生の言葉の下、最後まで何度も稽古した。



受講生のアンケートより

人形実技の進み方、講義内容について

- ・想像していたよりもはるかに濃い内容でとても満足でした。(40代女性)
- ・今回は特に基本中の基本である“足で立つ”“踏む”ということを繰り返し指摘して頂けたのが良かったです。回数が少なかったのですが仕方ありませんが、そこからもう少し発展した動きも出来たら良かったと思います。(40代女性)
- ・毎回同じような基本稽古も、先生方の教え方が様々なアプローチで私たちに問いかけてくるので毎度得るものがある。有意義な時間。(20代女性)

外部講師の方による特別講座について

- ・日本の江戸の伝統芸能の中に結城座があるということを改めて認識するよい機会になりました。日舞と能だけでしたが、もっと幅広くいろいろな芸能を体験してみたいと思いました。(40代女性)
- ・熱心に御指導くださり、感謝しております。(60代女性)
- ・とても丁寧に教えて下さいました。体の動き方や見せ方、どうしたらきれいに見えるかなどとてもためになりました。お能の謡の発声も、うまくは出来ませんでしたが、いろいろ試したり考えたり参考になりました。

講座の曜日、時間帯、回数などについて

- ・月水土と隔日にスケジュールが組まれているのは良い。全体の回数は良かったが卒業公演に向けての稽古はもっと欲しかった。(20代女性)
- ・週3回通うのが少々大変でした。特に毎週土曜日2コマの授業が体力的に大変だったので、土曜を隔週にしたり3回に1回はお休みにする等していただくとありがたいかもしれません。(50代女性)
- ・曜日・時間帯はちょうどよかったと思います。週3回の稽古に通うのはきつく感じることもありますが、通年ではないので頑張ることができました。(40代女性)

入門塾全体について

- ・とても難しく、奥深いものを真剣に教えて頂けて感謝しております。単に「人形実技」「芝居」「江戸文化」についてだけでなく、芸に対する心構えまで教えて頂けたことが、とてもよい経験になったと思います。(40代女性)
- ・人形の魅力に心を奪われました。(50代女性)
- ・見ているだけの時は簡単そうに見えたけれど、やればやるほど奥の深い江戸糸あやつり人形の世界を実感しています。(50代女性)
- ・こんなに歴史があって奥深く、面白い世界にこのような形で関わることができて本当に嬉しく良かったです。これまで考えたこともなかったようなこともたくさんあって、入塾する前と後では日常生活で考えることも変わってきたような気がします。糸あやつり人形を使って演技するということは、とても難しいぶん、予想以上に面白いと感じました。(20代女性)
- ・入塾者にはさまざまな方がいるが、目的意識が一緒なので学んでいて楽しかった。(60代男性)

最後に

今年度は 20 代から 70 代まで幅広い世代の塾生が集まってくださいました。塾生は年齢も性別も様々なら、入門塾に入塾された理由や目的もそれぞれ違うでしょうし、これまでどのような経験を積んでこられたのかも様々ですが、授業に出たら皆同じように学び、指導され、時には叱られながら、糸あやつり人形に向き合ってきました。

塾が始まるとしばらく基本稽古が続きます。しつこくしつこく訓練します。ところが発表会の稽古になると一転して急に新しい技術を求められ、台詞も言わなくては行けないし、本当に大変です。基本稽古で出来ていたはずの、人形をしっかりと地面に立たせることや、左右の足をきちんと動かすこともつい疎かになってしまい、糸あやつり人形の難しさや繊細さを痛感されたかもしれません。しかし同時に、人形を遣う面白さや喜びも感じていただけたと思っています。

諸般の事情により発表会を共に迎えられなかった方々もいらっしゃいましたが、皆さん本当に熱心に通ってくださいました。この入門塾によって日本の数少ない糸あやつり人形の人形遣いが少しでも増えていけばとても嬉しく思います。皆さんお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

結城座



文化庁委託事業「平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」



主催:文化庁

公益財団法人 江戸糸あやつり人形 結城座

国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」 「東京都無形文化財」

〒184-0015 東京都小金井市貫井北町 3-18-2

TEL 042-322-9750

FAX 042-322-3976

Email info@youkiza.jp

<http://www.youkiza.jp/>

協賛: 東レ株式会社 後援: 小金井市

印刷: 社会福祉法人 東村山けやき会 平成の里

結城産



